

株式会社 広楽園

所在地 山口市中央3丁目7-2

連絡先 TEL 083-922-0403
FAX 083-932-2040

代表 赤井 康彦



今月号では、創業153年を迎えられ、造園・緑化・土木工事を手掛けられている株式会社広楽園の5代目社長である赤井康彦氏にお話を伺いました。

沿革

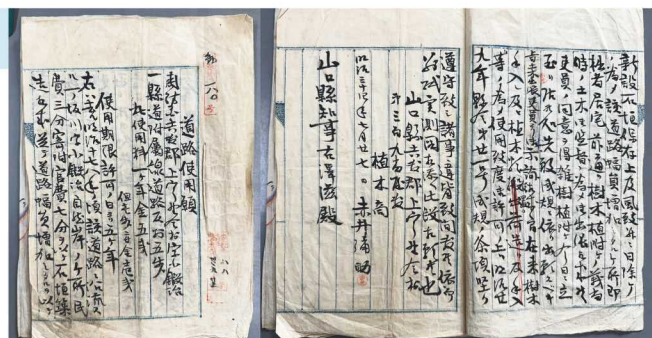
- 明治 5年 初代の赤井彌助が「植木商他力園」を創業
- 大正 5年 野田神社や井上公園などの造園工事を実施
- 昭和 3年 3代目の赤井榮助が「赤井広楽園」に社名変更
- 昭和52年 4代目の赤井哲春が「広楽園」で建設業許可取得
- 平成 7年 4代目が組織変更し「株式会社広楽園」に
- 令和元年 赤井康彦氏が5代目社長に就任
- 令和 4年 創業150周年を迎える

創業150年以上、明治から続く造園屋

広楽園は、造園・緑化・土木工事を手掛けている会社です。当社の始まりは、創業者であり私の高祖父にあたる赤井彌助が船で西日本を中心に回り、商売をしていたことに遡ります。現在の兵庫県宝塚市や伊丹市一带から植木を集め、尼崎港から船に積み、岡山港や広島港に卸して残りを三田尻港に荷揚げし、山口市の西門前にて販売したそうです。帰りの便には防府市で製造された五右衛門風呂や雑陶器類などを積んで戻り大阪で売っていました。

当時、山口には植木屋がなかったそうで、そこに目を付けた彌助は山口に移住し、「植木商他力園」として開業し、亀山公園や香山公園、知事公舎の造園など、県や財閥から多くの仕事を依頼されていたそうです。

その後、3代目の榮助（祖父）が「赤井広楽園」に社名を変更しました。「広く庭を楽しんでもらえるように」という想いを込めたと聞いています。その後、4代目の哲春（父）が「広楽園」と改めました。



現在も保管されている明治時代の文書



「三世代造園技能士家族表彰」で贈られた盾写真左から4代目哲春氏、3代目榮助氏、5代目康彦氏

祖父の几帳面な性格から色々細かく厳しく言われることが多くありましたが、技術的なことや仕事に対する姿勢など、同時に学んだこともたくさんありました。

また、3代目は93歳まで現場に出るなど庭師として長く活動しており、平成15年には一般社団法人日本造園組合連合会から「三世代造園技能士家族表彰」を受けました。

3代目は昔ながらの職人気質な人でした。採算度外視で自らが納得するまでやり続けるところがあり、経営者としての目線で採算性を考えることも重要としていた4代目とは頻繁に意見をぶつけ合っていたのを覚えています。

私は、維新百年記念公園内で高さ20メートル程にも成長する落葉針葉樹のメタセコイアの移植工事や、萩市内の病院にある庭の管理などで3代目と一緒に仕事をしました。

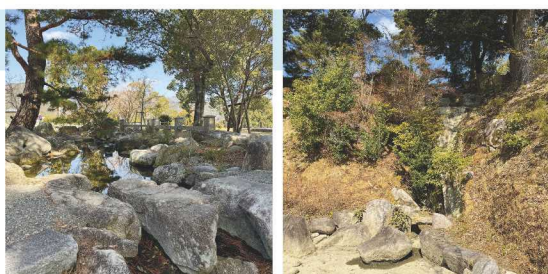


現在の維新公園のメタセコイア並木

山口の名所に携わってきた先代の仕事

初代・彌助は、慶長年間(1596~1615年)に毛利秀元が築きかけて中止した亀山の長山城の跡を整備し、明治33年に亀山公園の築造に加わり、広場までの滝の流れや東屋等の造園工事を手掛けました。また、春日山公園や、知事公舎、井上公園の造園工事にも取り組みました。

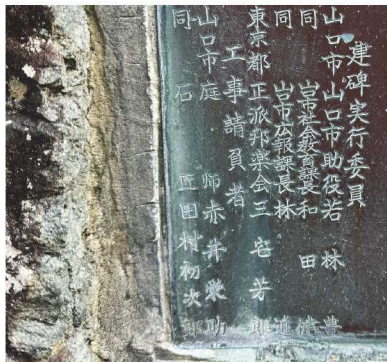
3代目は野田神社の参道や、山口県立美術館の日本庭園、料亭祇園菜



亀山公園山頂広場からサビエル記念聖堂側に造られた滝の流れ（現在の様子）

香亭の「瀧の庭」工事のほか、八坂神社で高さ6メートル、重さ15トンの「箏曲組歌発祥之地」の記念碑設置などを手掛けました。

先代が手掛けてきた仕事を見返すと、クレーン車などの機械がない時代に、大岩の石組みや石碑などを設置していたことに驚きを隠せません。今では機械を使うため、そのような重たいものを人力で運ぶ技術や知恵を身に付けていたことには脱帽です。



石碑の裏には工事請負者として「庭師 赤井栄助」の名前が刻まれている



有形文化財の「箏曲組歌発祥之地碑」

●時代に伴う仕事の変化、ニーズに合わせた取り組み

私は令和元年7月に、5代目社長に就任しました。現在は従業員8人(うち4人が庭職人)で事業に取り組んでいます。

私は高校を卒業した後、福岡の造園科がある大学に進学しました。大学を出てからは東京の造園会社に就職して5年ほど修行を積んだ後、山口に戻り、広楽園で働き始めました。正直に言うと、造園業に就くことに対して、はじめはあまり乗り気ではなく、逃げ腰だったと思います。ただ、私は一人息子だったので、「いずれは…」と、徐々に気持ちを切り替えて、後を継ぐことを考えるようになりました。

創業時は県下に植木屋がなく、県や財閥の仕事をほとんど任されていたようですが、同業者も増え、4代目の時代から、地方公共団体の仕事は公平公正に受発注するため入札制が主流となり、状況が変わっていきました。

現在、庭関連の仕事は日本庭園だけにこだわらず、和洋折衷のデザインを施した庭づくりや、住宅の外側を装飾するエクステリア工事などを手掛けています。ただ、生活スタイルの変化に伴い、近年は作庭を一から依頼されることは珍しくなりました。これまで自宅の庭の維持・管理をご依頼いただいていたお客様も、年配になるにつれて「管理を依頼し続けることは厳しい」と判断され、庭の手入れを止められる方も段々と増えているように感じます。

実際に一般家庭からの作庭依頼は減り、現在は9割以上が市内の企業などから会社敷地内に施された植え込みや植栽の剪定・整備、芝生のメンテナンス、公共施設の維持管理が主な業務となっています。

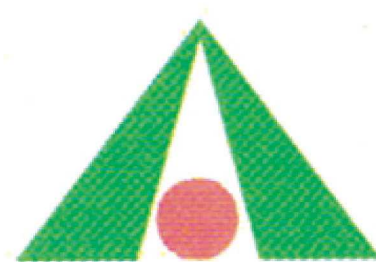
作庭の仕事は減少したものの、初代・彌助が亀山公園の築造に関わったこともあり、現在も「令和6年度山口市の亀山公園テニスコート管理業務委託」で携わっています。定期的な美化作業や、コート内でローラーをかけて平らにならす作業、ラインの点検保守などを行っています。



社屋敷地内にある盆栽

このほかにも、歴史の道「萩往還」の維持管理業務委託も受けています。天花坂口から萩市との市境付近の板堂峠まで、約2.7キロメートル間の美化作業です。駐車できる場所が限られているので、少しずつ歩いて登って点検するという地道な作業ですが、安全に登山を楽しめるようにすることを心掛けて作業しています。

当たり前のことですが、植物は成長していくものです。現在の業界に携わるようになって三十年近くが経ちますが、そのような植物の形を整え、維持していくことには、今でも難しさを感じます。しかしながら、しっかりとお客様の意向を汲んで仕事に反映し、ご満足いただけるように仕上げることを心掛けています。



現社長が考案されたロゴ「赤井」のイニシャル「A」、山口市の「山」、植木の緑をイメージ

●時代に合わせた技術を身に付け、後世につなぐ

時代の移り変わりに伴い、和風庭園の依頼は限られるようになりました。デジタル化が進み、庭職人は庭造りの腕を磨くだけでなく、図面を描くなどパソコンを使えるようになる必要も出てきました。今後も様々な変化が生じてくるだろうと思いますが、時代の変化に合わせた技術力を身に付け、150年以上の歴史を絶やさぬように邁進していきたいと考えます。